

令和8年度 墨田区立小梅小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 伊藤 康次

学校教育目標	児童一人一人が知性・感性・道徳心・体力を身に付け、人間性豊かに成長することを願い、○思いやりのある子 ◎深く考える子 ○たくましい子の育成に向けた教育を行う
目指す学校像	学校の教育目標の達成に向けて教職員が一丸となって、日々、組織的・計画的に展開する教育活動に、「人の心をひきつけるものがある」学校
目指す児童像	①自分を大切にし、友達のよさを認め、相手の気持ちを考えて行動しようとする子 ②意欲をもって自らが学び、地道に努力し、自分の考えを高めようとする子 ③心身ともに健康で、最後まで粘り強く取り組む子
目指す教師像	①学校をつくる主体者としての自覚をもち、児童の成長に手ごたえを働き甲斐と感ずることができる教職員 ②経験、職層、職種、分掌、立場に関係なく、互いの立場を尊重しあい敬意をもって接することができる教職員 ③自らを律し、教育公務員としての使命を全うするとともに、ワーク・ライフ・バランスを意識し、自分、家族、家庭を大切にしながら職務に専念できる教職員

○令和8年度 学校経営計画における重点内容

(1)「魅力ある学校」の創造～輝き、夢、実現～を学校経営の基本理念とし、教職員一人一人が「魅力ある小梅小を創造する主体者」であるという自覚を高めていく。そのためには、  
 ①本校の児童の実態を全体像と個別課題の両側面からとらえ、一人一人の心と実態に寄り添う支援を全教職員で共通理解しながら強力に推進する。  
 ②特別に支援が必要な児童や外国につながる児童など多様性を尊重し、皆が共に学び合い、理解し合い、高め合う学び舎を目指す。  
 ③「深く考える子」に重点をおき、基礎的な学習内容の定着を基盤としながら、類推的思考、帰納的・演繹的思考、批評的思考等を駆使して児童自らが学びを津くことができる授業改善を推進する。

(2)地域の特色、素材、人材を生かした教育活動の充実を図る。そのために、  
 ①地域素材や人材を活用した教材を開発し、児童の地域理解を深め、本校だからこそできる学習を展開する。  
 ②PTA活動や放課後こども教室、放課後図書室などの諸事業との連携を図り、児童を取り巻くすべての大人が為すべきことを為す学校づくりを目指す。

(3)ミドルリーダー層の積極的な学校経営への参画を通して、学校全体の組織力の向上を図る。そのために、  
 ①躊躇せず「ヘルプサイン」が互いに出せる人間関係、情報を共有し、開かれた学校風土を構築する。  
 ②OJT等を通して、ミドルリーダー層の人材育成への意識の醸成、および、経験年数の少ない教員の指導力の向上を図り学校全体の教育力の向上を目指す。  
 ③学校内における諸問題の多様化、複雑化 一人で解決できる問題は極めて少ないという認識のもと、「協働」して問題に対処する職場環

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	「深く考える子」の育成を目指す授業改善を推進する。	「書くこと」に重点をおいた国語の校内研究を推進し、児童の「書く力」の向上を目指す授業の在り方を追究する。	4 校内研究授業7回以上		4 児童アンケート「考えることが楽しい」6年75%以上						
			3 6回（年間計画通り）		3 70%以上						
			2 5回		2 65%以上（令和7年度水準）						
			1 4回以下		1 65%以下						
	「深く考える子」の実現に向けて、探究的な学びの充実を目指す。	全学年で探究的な学びを全教科で推進し、考えることの楽しさや大切さを実感できる授業の授業づくりを目指す。	4 全学年、全教科で実施		4 保護者アンケート「深く考えている」80%以上						
			3 中・高学年で全教科で実施		3 76%以上（令和7年度水準）						
			2 中・高学年で一部の教科で実施		2 70%以上						
			1 一部の学年の実施		1 70%以下						
	基礎基本の確実な定着と発展的な学びの充実を図る。	基礎的な学習内容の定着のために、授業の振り返りと定着状況の確認、各種学習アプリ、放課後学習教室を通して、個別課題に沿った復習や発展的な問題への取組の充実を図る。	4 教員アンケート「授業の振り返り」100%		4 区調査高学年算数下位層20%以下						
			3 90%以上		3 27%以下（令和7年度水準）						
			2 85%以上		2 30%以下						
			1 85%未満		1 31%以上						
生活指導等	豊かな心を育み、自立した児童を育成する教育を推進する。	縦割り班活動や学校行事、特別活動等で、自己の役割を明確にし、他者とかかわりながら、自己有用感や自尊感情を高める教育活動を推進する。	4 教員アンケート「自己有用感を高める」95%以上		4 児童アンケート「自分が好き」6年70%以上						
			3 90%以上		3 65%以上						
			2 85%以上		2 60%以上（令和7年度水準）						
			1 85%以下		1 60%未満						
	規律ある学校生活を送ることができるよう一丸となった指導体制を確立する。	「4つのあ（あいさつ、あつまり、あとしまつ、あんぜん）」を全教職員で共通理解し、指導の徹底を図る。	4 教員アンケート「『4つのあ』の徹底」100%		4 保護者アンケート「あいさつ」70%以上						
			3 95%以上		3 65%以上						
			2 90%以上		2 60%以上（令和7年度水準）						
			1 90%未満		1 60%未満						
	児童一人一人の心や事情によりそい、互いを尊重し合う教育を徹底する。	いじめ、不登校の未然奉仕、早期発見・解決に努め、児童が安心して学校生活を送ることができる教員組織を確立する。	4 月1回の確実ないじめ・不登校会議の実施		4 児童アンケート「学校が楽しい」6年90%以上						
			3		3 85%以上（令和7年度水準）						
			2		2 80%以上						
			1 いじめ・不登校会議実施が不十分		1 80%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
学校の管理運営	教職員の特別支援教育に関する理解を深め、支援を必要としている児童を組織的に対応できる学校体制を確立する。	まなびの教室との連携、学級の授業の中に特別支援教育の視点を踏まえた授業づくり、児童一人一人の事情や背景に着目した支援を全教職員で共通理解し、組織的に支援する。	4	特別支援教育構内研修会4回以上	4	保護者アンケート「楽しく学校に通学」96%以上（令和7年度維持）					
			3	3回（年間計画）	3						
			2		2	90%以上					
			1	2回以下	1	90%未満					
学校の管理運営	保護者、地域と一体となった教育活動を展開できるように協働・連携を一層に密にする。	全学年で地域の素材や人材を生かした学習を行い、学校や地域に愛着を持つことができる教育活動を創る。	4	全学年で地域学習を実施	4	児童アンケート「地域活動参加」6年80%以上					
			3	半数以上の学年の実施	3	75%以上					
			2	一部のみの実施	2	70%以上（令和7年度水準）					
			1	実施不十分	1	70%未満					
学校の管理運営	校内環境を整備し、児童が安心して学校生活を送ることができるよう安全管理を徹底する。	校内設備の整備、点検、休み時間等のけがの未然防止、感染症対策など教職員一人一人の危険測・危機管理能力を高め、安全安心の学校づくりを目指す。	4	毎月の安全点検の確実な実施	4	けがによる保健室来室児童15%削減（R7、総数581）					
			3		3	10%削減					
			2		2	昨年度水準と変化なし					
			1	安全点検での実施内容が不十分	1	昨年度より増加					
家庭・地域連携	学校教育の取り組みを積極的に保護者、地域に発信し、本校の教育活への一層の理解を促進する。	学校ホームページ、学校facebook、学校・学年だより等を活用して、学校教育の内容を発信する。	4	学校ホームページ等への適時配信	4	保護者アンケート「情報発信」95%以上					
			3		3	90%以上（令和7年度水準）					
			2		2	85%以上					
			1	配信時期の遅れ、不十分な配信状況	1	85%未満					
家庭・地域連携	PTA行事や地域行事に教職員が積極的に参加し、保護者、地域との連携を一層図る。	小梅まつり、祭礼、PTA主催行事に教職員が積極的に参加できるよう、教職員個々の事情に配慮しながら多様な形で参加できる仕組みを作る。	4	教職員の参加がおおむね良好	4	保護者アンケート「学校は協力的」80%以上					
			3		3	75%以上					
			2		2	70%以上					
			1	参加が不十分	1	70%未満					
家庭・地域連携			4		4						
			3		3						
			2		2						
			1		1						

○令和8年度 学校経営報告のまとめ（総括）